

桜の季節がやってきました。

転勤や進学など、環境の変化も多いこの時期ですが、みなさまはいかがお過ごしでしょうか？ 寒い冬が終わり、夏までの間は体を動かすのにも最適な季節です。ぜひ、屋外に出てスポーツをはじめてみませんか？ きっと素敵な発見があるはずです。

***** Sports Community & Intelligence Complex *****

【神戸スポーツ夢フェスタ2005】

去る1月8日、神戸ウイングスタジアムにて、“神戸スポーツ夢フェスタ”と題したスポーツイベントを開催し、3000名近い市民の方々にご来場いただきました。

運営主体は、コベルコスティーラーズ、SCIXをはじめ、神戸アスリートタウンクラブ、こうべスポー

ツ応援団などの市民NPO、また、オリックスバファローズ、ヴィッセル神戸、関西アメリカンフットボール協会などのスポーツチーム・団体で総勢150名のスタッフが運営にあたりました。

*** 小学生スポーツ教室 ***

芝生広場にて、野球、ラグビー、サッカー、フラッグフットボール、チアリーディング、テニスの教室がそれぞれ開かれ、事前申込のあった約700名の児童が参加しました。会場には、ウイングスタジアムのキャラクターであるスーパーウイングも応援に駆けつけ、子供たちに「宇宙人！」「マルマル・マン」などとかかわれながら、会場を盛り上げていました。

参加者は、その競技の経験者がほとんどでしたが、なかには「ラグビーポ

ールを初めて触る」という女の子たちもいて、皆興味津々で教室を楽しんでいました。

野球教室では、広いグラウンドを使ってのティーバッティングと、守備練習が行なわれ、ボールを怖がらず果敢に前へ出る少年には、

「おまえ、すごいな！」

と、思わずオリックスバファローズのコーチも唸っていました。練習後には、カレンダーのプレゼントまであり、みんな大満足の様子でした。



*** スポーツ体験コーナー ***

特設コーナーを設け、サッカーボールや野球のボールを使った的当てゲームを楽しんでいただきました。こちらのコーナーは、小学校入学前のちびっこたちも

大いに盛り上がっていました。



*** 【神戸っこ スポーツ夢・元気宣言】 ***

スポーツ教室終了後は、ウイングスタジアム内に場所を移し、震災10周年のイベントを開催しました。神戸市消防隊吹奏楽部の演奏でスタートした後、会場に集まった人々で『しあわせ運べるように』を合唱。そして、子供たちを代表して、湊小学校の児童8名に「スポーツ夢・元気宣言」を行なってもらいました。

イチローのようになりたい男の子や、北島康介選手のように「超きもちいい」と言ってみたい少年。あるいは、栗原恵に憧れてバレーに打ち込んでいる女の子。みんなスポーツが大好きだから、「負けたくない」と思い、「夢を叶えたい」と誓い、遊ぶ時間を減らして練習に打ち込んでいます。

地域と一致協力して、子供たちの夢を叶えるチャンスを少しでも与えてあげられるよう、また、それがスポーツによる地域振興に繋がっていけるよう、私たちも子供たちに負けないように頑張っていきたいと思った瞬間でした。



また、セレモニー終了後は、コベルコ・スティーラーズ対ヤマハ発動機の試合が行なわれ、イベントに参

加いただいた小学生と保護者の方々にも観戦していただき、大いに喜んでいただきました。

***** Sports Community & Intelligence Complex *****

【フットボールコーチングセミナー4】

3/21、神戸ウイングスタジアム内研修室にて、『フットボールコーチングセミナー』を開催しました。4度目となる今回のテーマは、「選手の視野・視覚」。

元ヴィッセル神戸ジュニアユース監督として、チームを日本一導いた昌子力氏からは、サッカーにおける視野の重要性について、

「試合中の選手たちがプレイの選択肢を多く持つために、視野が重要。周りをよく見ることによって、多くの情報を得、判断することにつながり、選択肢を自分で増やすことができるからである。そのため指導者は、単純なスキルにこだわ

った練習ではなく、多くの選択肢を与えるためのスキルアップを心がけることが大切」

というお話がありました。

また、ラグビーからはコベルコ・スティーラーズで選手として日本一になった武藤規夫氏が教壇に立たれました。

「ラグビーは、攻撃を継続させるためにコミュニケーションが欠かせない。声を出し合って、指示を与えるため、敵がどう動いているのか、味方がどの位置にいるのか、常に視野に入れておく必要がある」。



最後に、関西学院大学アメリカンフットボール部を率い、日本一になった鳥内秀晃氏が登場。

「常にストップした状態から始まるアメリカンの場合、視野で相手を騙すことが重要である」

というお話があり、実際にどのようにしてフェイクをすればいいのか、熱心な指導を展開してくださいました。

今回、会場で目を引いたのは、若い女性グループの姿でした。女子大でタッチフットボールをしているという彼女たちは、熱心にメモを取り、コーチたちの話

に耳を傾けていました。また、今回も神戸ウイングスタジアムに設置された天井カメラで撮影された映像を使っての解説が行なわれ、参加者の方々からは、「非常にわかりやすかった」とのお声をいただくことができました。



<セミナー終了後、受講者の質問に答えるトップコーチの方々>

***** Sports Community & Intelligence Complex *****

【SCIXラグビークラブ】

今期、SCIXラグビークラブは、一般の部で目標の関西Aリーグ昇格を果たしました。高校の部は、残念ながら1勝にとどまり、目標の2回戦突破を果たすことができませんでした。

中学生・高校生の部では、進学を期にクラブを離れる選手がいて、3/27に灘浜グラウンドで最後の練習と、クラブハウスにて“お別れ会”が催されました。

*** A graduation ceremony ***

練習に集まったのは、30人近い学生たちでした。

暖かい春の日差しを浴びせていた太陽が雲に覆われはじめた午後三時、武藤コーチの呼びかけで、ゲーム方式の練習がスタートしました。

色とりどりのウェアと、微笑まし

くなるほどの体格差。まだ成長過程の中学一年生と比べると、18歳の“お兄さん”は、ほとんど大人と一緒にです。少年たちは、しかし、ボールを追いかけることに夢中で、怖がっている様子はありません。どちらかというところ、お兄さんたちの方が少年を突き飛ばしてしまうことを恐れ、やさしくタックルしてあげているようでした。



とはいえ、練習が始まれば、中学生も高校生も『やるべきこと』は同じ。パスをつないでトライをめざす。そのために、どう動けばいいのか。また、トライさせないためにどう守ればいいのか。

声を出し合い、味方同士でうまくコミュニケーションを取っていないと、オフenseもディフェンスもうまく機能しません。そのため、コーチからは何度も叱責の声が上がっていました。

「指示出したれ！それが先輩としての優しさちゃんか！」

なんだか、胸にぐっとくる台詞。ラグビーだけではなく、日常生活にも当てはまりそうです。卒業生の1人が言っていたとおり、こういったことが、「SCIXで学んだ意味のあること」なのかもしれません。



*** A graduation ceremony ***

“お別れ会”のメニューは、父兄の方々が作ってくださったカレーライスと豚汁でした。

卒業する10名(1名は早退)が呼ばれ、前に出ると、藪木コーチから名前入りの小さなラグーシャツのレプリカが贈呈されました。



卒業生たちの今後の目標は、「花園に出て日本一になる」や「できるだけ早く花園に出たい」などラグビーでより高みを目指そうとするものや、「SCIXのことは、一生忘れられないと思う。工業デザインの勉強を頑張る」

「ラグビーをしながら、歯科医を目指す」など、新たな世界へ挑戦していくものなどでした。進む道はそれぞれバラバラですが、みんなが、SCIXでラグビーをしてきたことに、なんらかの意味や感謝を持って先へ進んで行こうとしているのが伝わってきました。

先輩・後輩を送り出す高校生からは、

「先輩たちを超えていけるように頑張る」「花園に出る選手がいたら、応援に行く」といったメッセージが送られました。



父兄の方が用意してくださったカレー

***** Sports Community & Intelligence Complex *****

【入会案内】

(会員・会費について)

会員種別		入会金	年会費
正会員	個人会員	-	5,000円
	団体会員	1口 100,000円(何口でも可)	100,000円
サポーター	個人会員	-	
	団体会員	1口 50,000円(何口でも可)	50,000円
WEB クラブメンバー	個人会員	-	-

(お問い合わせ)

SCIX事務局 〒651-8585
 神戸市中央区脇浜町2-10-26
 tel: 078(261)4046
 e-mail: office@scix.org

SCIXは、みなさまのボランティアな支援によって支えられています。

【発行人】SCIX事務局 五十嵐慎哉
 【編集】小林尚美
 【発行元】SCIX事務局
 〒651-8585
 神戸市中央区脇浜町2-10-26
 tel: 078(261)4046
 e-mail: office@scix.org